

平成 19 年 10 月 10 日

各 位

会社名 国際石油開発帝石ホールディングス株式会社
代表者名 代表取締役社長 黒田 直樹
コード番号 1605 東証第 1 部
問い合わせ先 広報・IR エグゼクティブ・マネージャー 宮本 修平
電話番号 03-5448-0205

インドネシア共和国東カリマンタンマハカム沖鉱区での天然ガスの発見について

国際石油開発帝石ホールディングス株式会社は、子会社国際石油開発株式会社を通じ、TOTAL 社と共同で事業を実施しておりますインドネシア共和国東カリマンタンマハカム沖鉱区の南部において、今後開発予定のストゥーパガス・コンデンセート田の近傍にて掘削した 2 坑の試掘井により、天然ガスを発見いたしましたので、お知らせいたします。

今回掘削した試掘井イーストマンドゥー 1 号井およびウエストストゥーパ 1 号井により、それぞれ良好な天然ガスの存在（構造）を確認いたしました。両構造から発見されたガス・コンデンセートはそれぞれ数キロメートルに位置する現在開発申請中のストゥーパガス・コンデンセート田とともに一体開発され、2012 年に生産を開始する予定です。

マハカム沖鉱区では、当社 50%、TOTAL 社 50%の権益比率にて、探鉱・開発・生産事業を行っており、現在、日量、原油・コンデンセート 70,000 バレル、天然ガス 26 億立方フィートを生産しております。同鉱区で生産された原油・コンデンセートは、日本などに輸出されているほか、天然ガスは、LNG（液化天然ガス）の原料ガスとして、世界最大級のボンタン LNG プラントに送られ、同プラントで生産された LNG は、日本などに輸出されております。ボンタン LNG プラントは、マハカム沖鉱区を含む周辺鉱区で生産される天然ガスを原料ガスとして供給を受けておりますが、同鉱区の供給比率は約 80%となっており、主力の原料ガス供給源となっております。今回発見された天然ガスも、ボンタン LNG プラントでの原料ガスとして利用される予定です。

当社グループは、インドネシアにおいて、上記のマハカム沖鉱区に加えて、南ナトゥナ海 B 鉱区、北西ジャワ沖鉱区、南東スマトラ沖鉱区などで原油・天然ガスの探鉱・開発・生産事業を実施しているほか、LNG プロジェクトを開発中のタングープロジェクトを構成するベラウ鉱区に権益を有しております。また、100%権益を保有するオペレーターとして、チモール海沖合マセラ鉱区で発見したアバディガス田の評価作業等の事業を実施しております。

以上

